

校内資料

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成21年度

在学生・教職員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

平成21年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートは開始から7年目となり、本校のFD活動の要の1つとしてその重要性を増してきた。アンケート活動に関する学生の対応も年毎に向上しており、好ましい限りである。真摯な回答が得られるにつれ、対応する学校側の責任が増してきているのを深く認識している。評価のみ求めて改善は後回しと言うやり方は、この種活動の最も忌みすべき行動である。KTC教育評価委員会は、本アンケート結果と各種評価結果を総合的に分析し、本校の進むべき方向を模索し必要な具体的施策を提言することとなる。

本年度のアンケート結果には、企業並びに卒業生からのご意見は含まれない。このことは、急速に変化するグローバル化社会に対応し、地域密着型の高専として方向を打ち出している本校の今後の課題となる。

高専は、人間形成の場として、社会からは即戦力養成の場として、学生からは知識吸収や日々の楽しみ場の場として、並びに、教職員にはなりわいと個人の幸せ追及の場として存在している。いずれかの要素を偏重することは、学生教育上問題を発生させることになる。しかし、私学が公立学校と異なる点は、この学校がある「理念」の下に存在し、それを追及する人間の組織として存在し、それを求める学生が集まっていると考えることができることである。

前年同様、今年も学生の本校に対する印象度が向上したことは嬉しいことである。その反面、学生募集は低迷しており、教職員は多忙感や業務集中を訴えている。限りある各種資源を活用して改善を進める必要がある。

アンケートの総合判定結果や多くの意見は、上記観点に立って真摯に評価されるべきであり、その結果、各種の提言は明日への改善策として活用されることとなる。本校は、学校・教職員、保護者、学生の三位一体となった教育改善活動を行ってきた。改善活動の第2期に入っている今時、この結果を今後の学校改革に活用して行きたい。

今結果の総括と分析にご協力賜ったアイポイント、並びにCS室の方々に感謝申し上げます。

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

全体概略

調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。(今回は卒業生、企業担当者への調査は実施していない。)
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で7回目となるが、前回に内容を大きく見直している。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施し、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、H20年度からは年度末の実施に戻している。

調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、全て無記名式とした。	
総回答数	529サンプル	
	1年生～5年生	• 有効回答数 1年生:81サンプル、2年生:104サンプル、3年生:92サンプル、4年生:103サンプル、5年生:96サンプル • 各クラスで配布し、回収した。(配布:2月12日、回収:2月12日)
	卒業生	• 今回は実施せず。 • 5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。
	教職員	• 有効回答数 53サンプル • 各教職員に配布し、回収した。(配布:2月12日、回収:3月13日)
	企業担当者	• 今回は実施せず。 • 5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に、本来の棒グラフでは見にくくなるために折れ線グラフで表現しているものもある。
呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の1年生から学科構成が「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」となっており、これまでの「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」とは異なっているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。 学科別に時系列の集計を行う場合には、同系列の学科を合わせて、「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」という3つの学科として比較を行った。

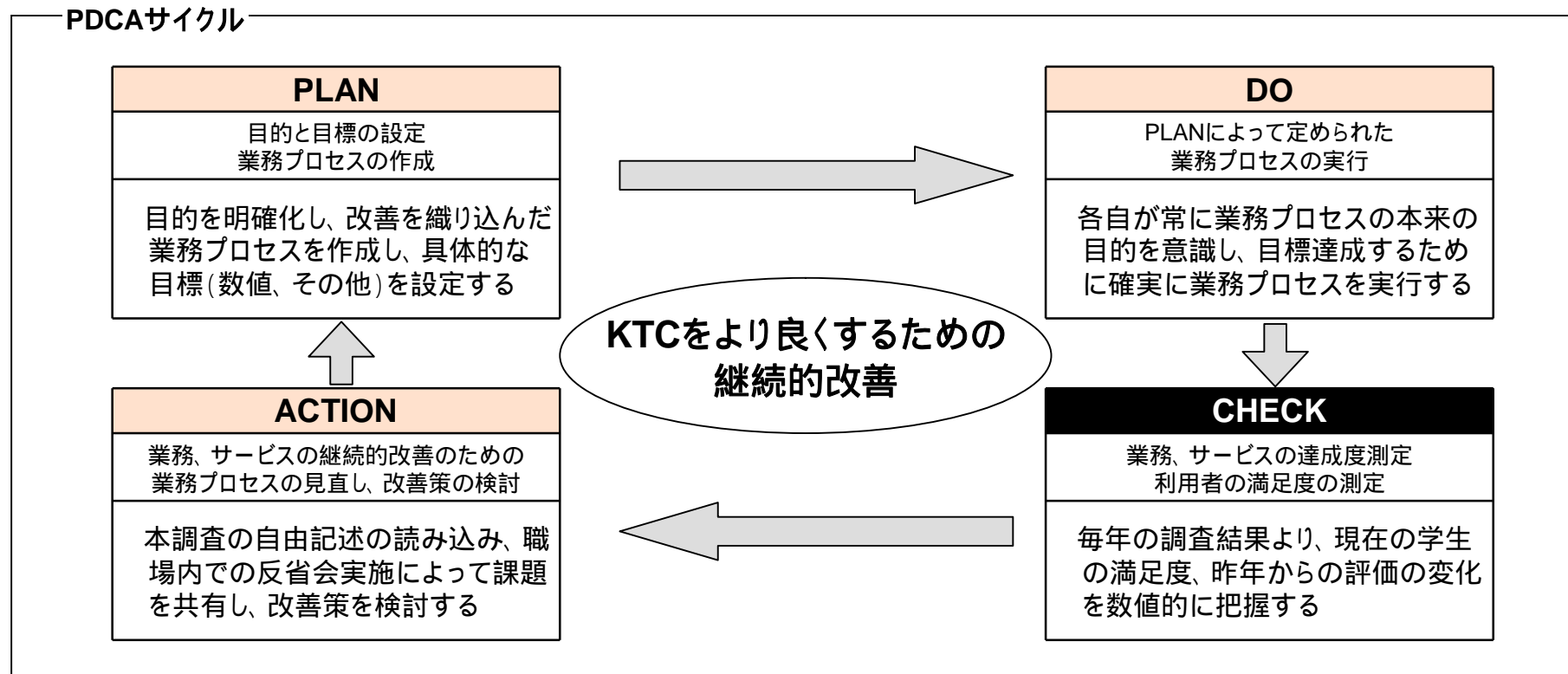
回答者数に関して

学年	平成21年度 回答者(今回分)	平成20年度 回答者	平成19年度 回答者	平成18年度 回答者	平成17年度 回答者数	平成16年度 回答者数	平成15年度 回答者数
1年	81人	110人	92人	121人	122人	135人	140人
2年	104人	105人	108人	117人	130人	135人	127人
3年	92人	95人	88人	113人	113人	98人	113人
4年	103人	103人	114人	121人	113人	109人	121人
5年	96人	111人	124人	105人	101人	116人	129人
卒業生	0人(実施せず)	77人	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	66人
教職員	53人	59人	52人	50人	48人	56人	50人
企業担当者	0人(実施せず)	36人	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	65人
合計	529人	696人	578人	627人	627人	649人	811人

PDCAサイクルに関して

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置づけられる。



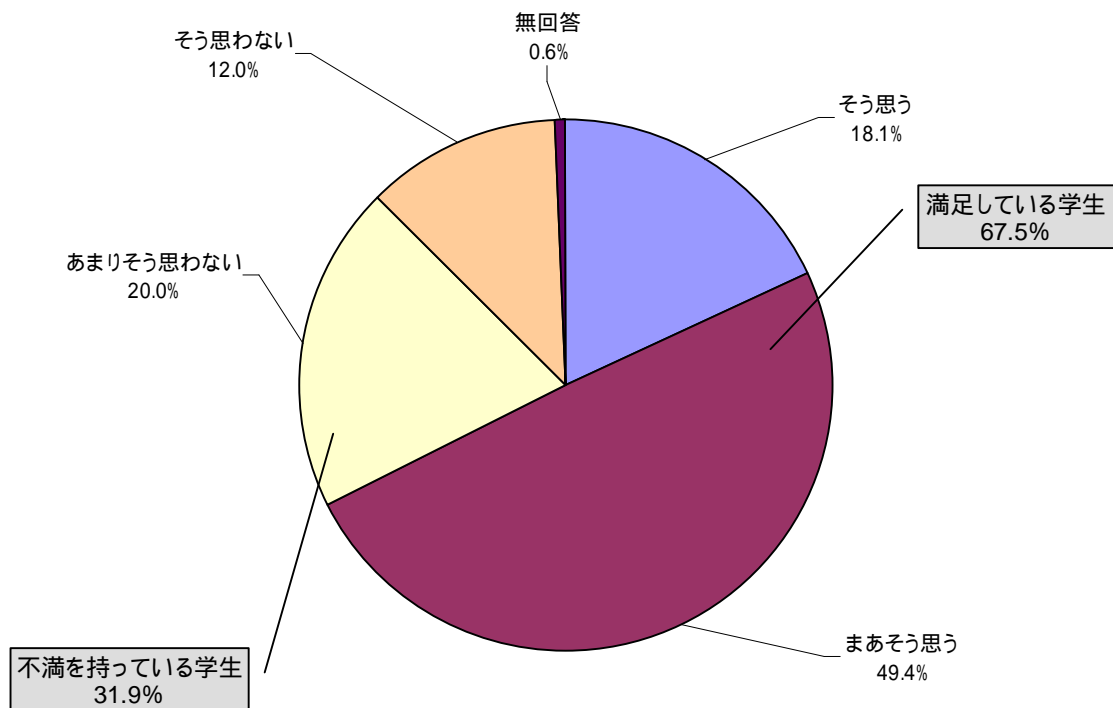
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられる。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

金沢高専の総合的な満足度

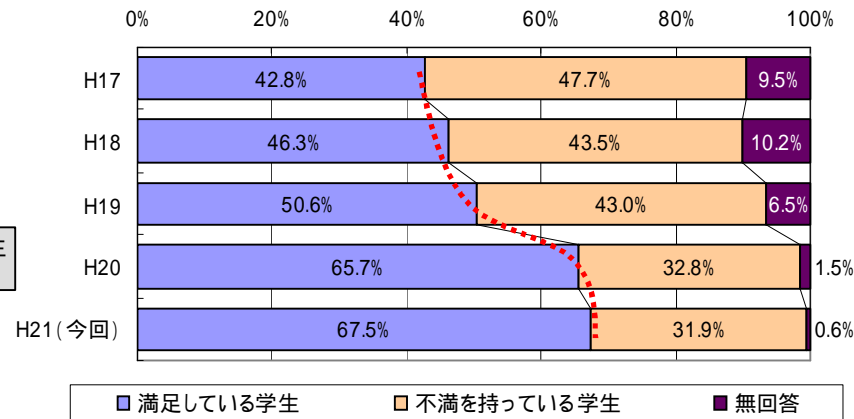
本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」では、「そう思う」が18.1%、「まあそう思う」が49.4%であり、合わせると67.5%が満足していると答えており、不満を持っている学生は31.9%にとどまっていた。
- H19までは選択肢に「わからない」があり、それも「不明・無回答」に加えて集計していた。H20からは「わからない」という選択肢をなくしているため純粋な比較はできないが、H20に「満足している学生」が急増しており、今回のH21では前回より1.8ポイント増加していた。
- 「満足している」という学生はH17からH19にかけても増加しており、選択肢が変わってからも増加が続いている。調査の実施時期の変更や聞き方の変更はあるものの、満足度は継続的に上がっていると言って良いと思われる。

総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



金沢高専の総合的な満足度 年度別比較



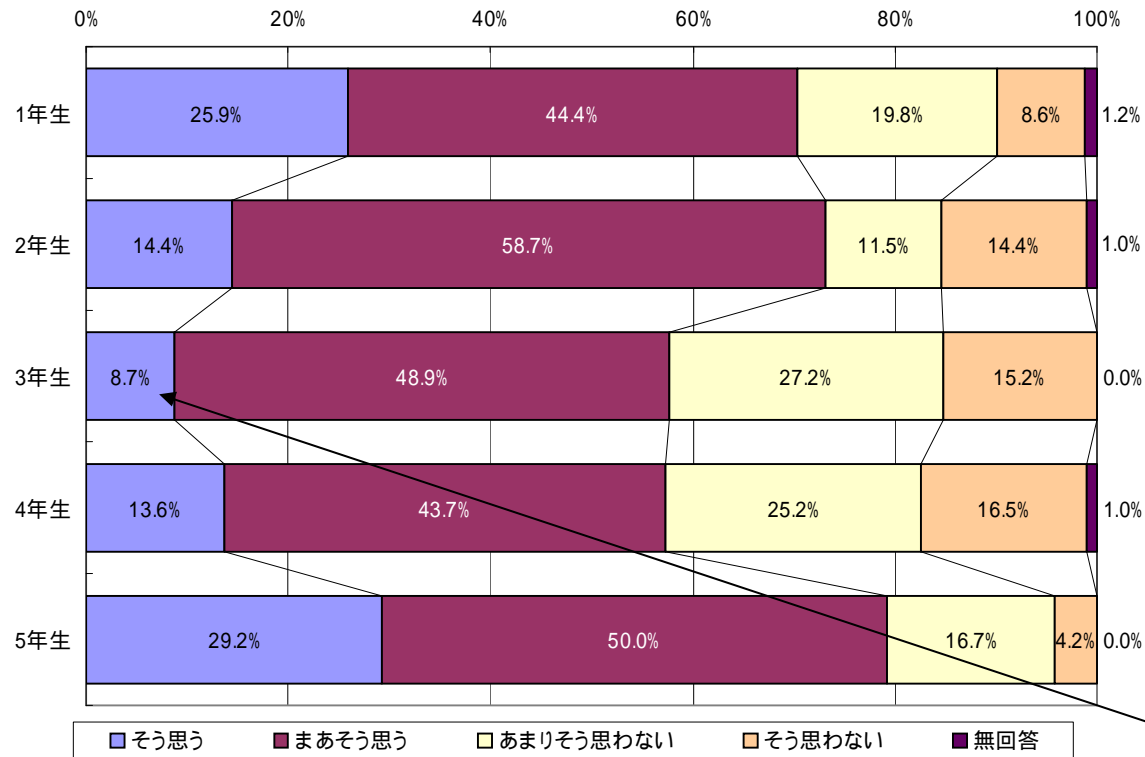
金沢高専の総合的な満足度 年度別内訳

年度	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
H17	42.8%	<	47.7%
H18	46.3%	>	43.5%
H19	50.6%	>	43.0%
H20	65.7%	>	32.8%
H21(今回)	67.5%	>	31.9%

総合的満足度の学年別比較

- 高専の総合的な満足度を学年別に比較したところ下記のようなグラフとなった。
- 「そう思う」だけをみると「1年生」は25.9%であったが、学年が上がると減少し、「3年生」では8.7%であり、満足度が非常に低いことが分かった。そして、学年が上がると再び増加し、「5年生」では29.2%で全学年中で最も多かった。
- 「まあそう思う」は学年による差はあるものの、45～60%程度を占めており、どの学年でも半数前後は「まあ満足」と感じているようであった。
- 「そう思う」と「まあそう思う」を合わせると、「5年生」では79.2%となり満足度の高さがうかがえ、「2年生」が73.1%で続いていた。
- その他の学年をみると「1年生」は「そう思う」は多いものの、「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計が28.4%であり、入学直後にも関わらず3割が不満を持っていることが分かった。不満を持っている学生は「3年生」と「4年生」では両者共に約4割を越えており、今回の調査ではこの2学年の不満が大きく、特に「3年生」の不満が大きいと言える。

金沢高専の総合的満足度 学年別比較



金沢高専の総合的満足度 学年別内訳

学年	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
1年生	70.4%	>	28.4%
2年生	73.1%	>	26.0%
3年生	57.6%	>	42.4%
4年生	57.3%	>	41.7%
5年生	79.2%	>	20.8%

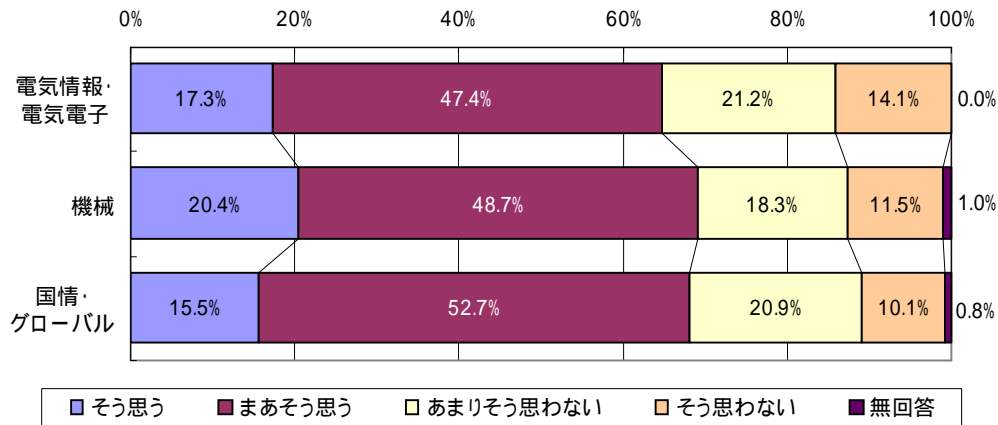
すべての属性で「満足」の割合が「不満」を超えた

「3年生」の低さが目立っている

総合的満足度の学科別比較

- 高専の総合的な満足度を学科別に比較したところ、「そう思う」は「機械」が20.4%でやや高く、「国情・グローバル」が15.5%で低めであった。「まあそう思う」を加えると学科による差は少なく、「機械」では69.1%が満足と答えており、「国情・グローバル」では68.2%、「電気情報・電気電子」では64.7%であった。
- 学科別の年度変化も前項と同様に学生群が変わっているという前提で見る必要があるが、「電気情報・電気電子」はH18から継続的に満足度が上がっていた。前回と比較して上がっていたのはこの学科だけであり、良い状態にあるものと思われる。
- 「機械」「国情・グローバル」もH20までは満足度が上がる傾向にあったが、今回は前回から変わっておらず、横這いであった。

金沢高専の総合的満足度 学科別比較 (在学生のみ)

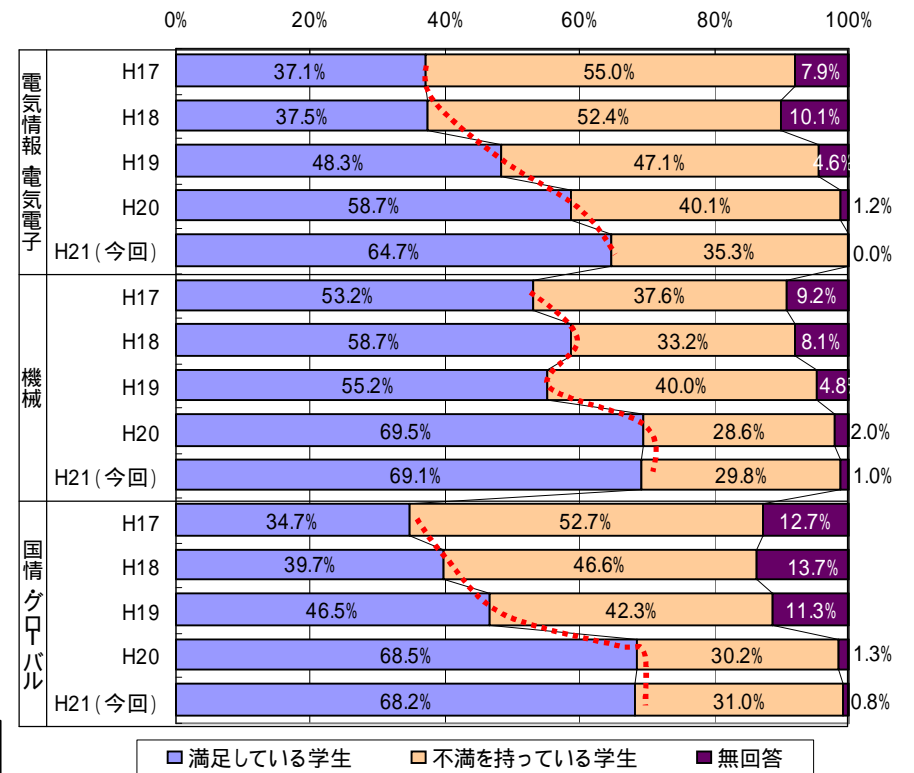


金沢高専の総合的満足度 学科別内訳

学年	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
電気情報・電気電子	64.7%	>	35.3%
機械	69.1%	>	29.8%
国情・グローバル	68.2%	>	31.0%

全学科共に満足している学生の方が多い

金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較

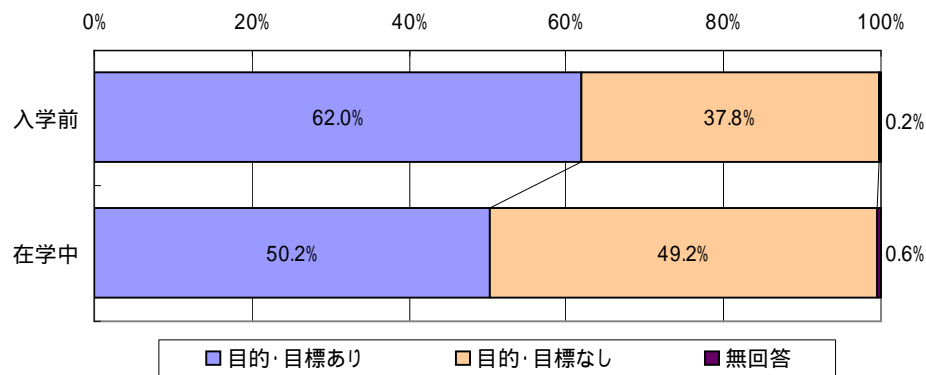


目的・目標に関する意識に関して

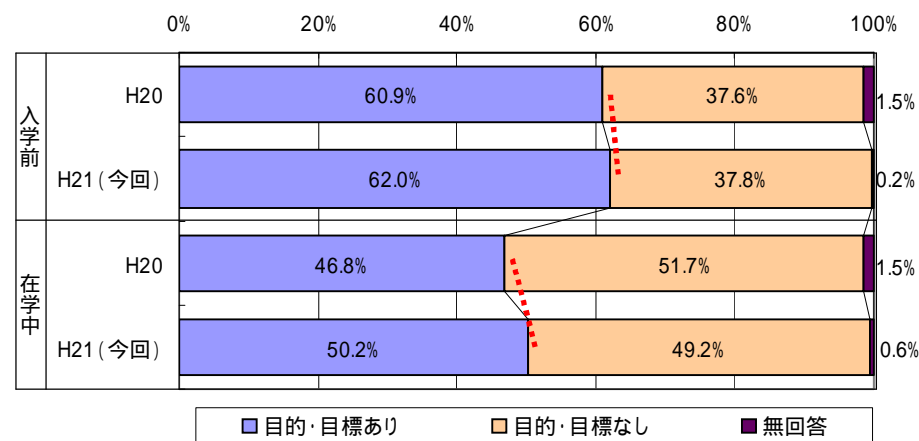
入学前、在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専に入ったらこれがやりたいという入学前の目的・目標」の有無と、「現在、高専生活をおくる上での目的・目標」の有無の2点を聞いたところ、入学前には62.0%、現段階(在学中)には50.2%が「目的・目標あり」と答えており、入学前と比べると11.8ポイント低下していた。
- 前回の調査と比較すると、入学前の「目的・目標あり」は今回の方が1.1ポイント多かったがほぼ横這いで、入学前の目的・目標の意識に変化は見られなかった。
- 入学後の現段階では前回の46.8%を3.4ポイント上回っており、わずかではあるが在学中に目的・目標を持っている学生が増加したことが確認できた。

高専入学前、在学中の「目的・目標」の意識(在学生のみ)



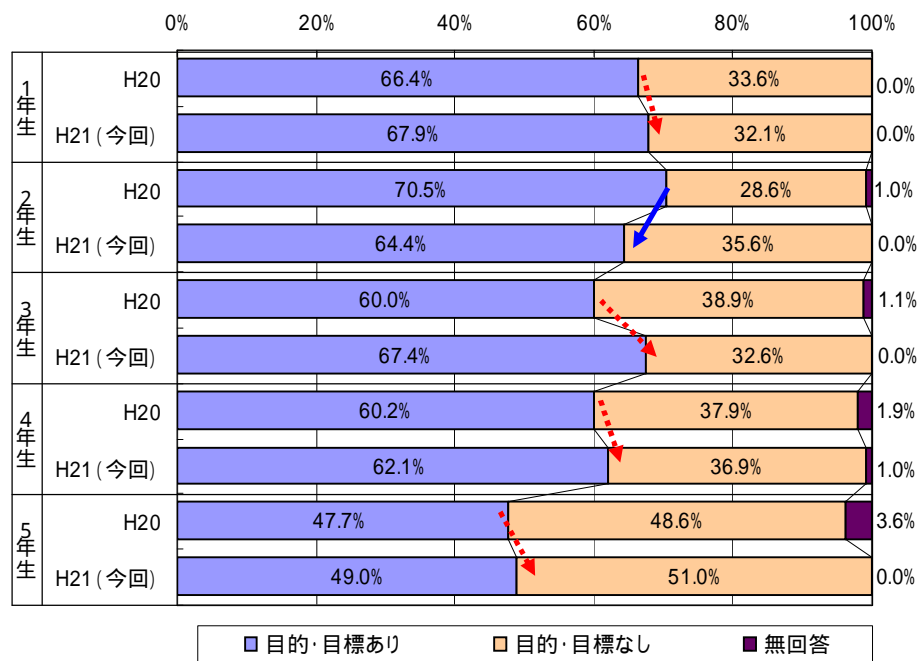
高専入学前、在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



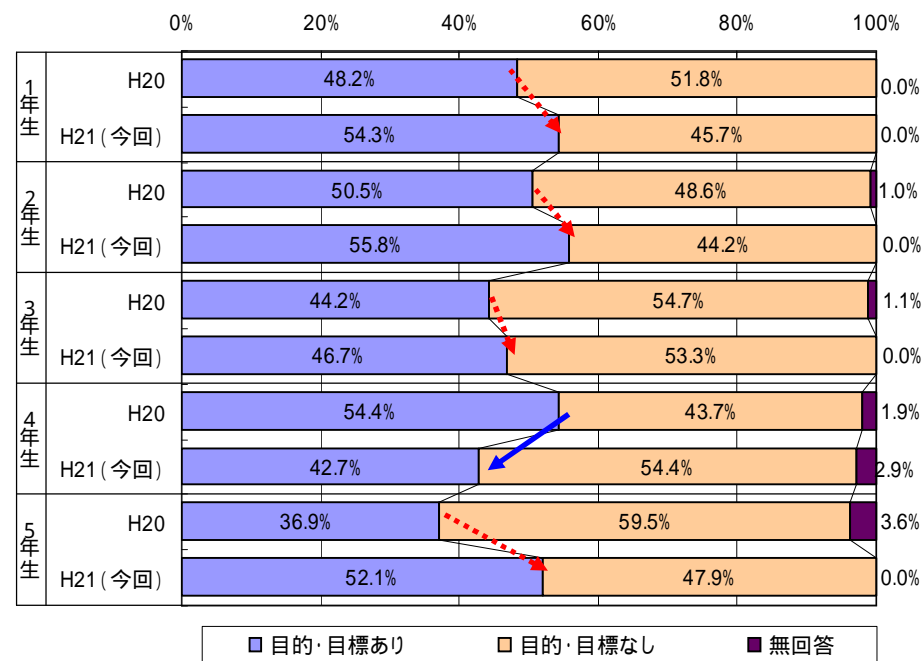
「目的・目標」の意識の学年別比較

- 入学前の「目的・目標」の意識を学年別に見たが、まず、H21だけを見ると「1年生」と「3年生」がやや高めであり、「5年生」の低さが目立っていた。しかしこれは入学時点の意識についてであり、「5年生」は思い出しながら答えているため、低めになったものと思われる。
- 学年別の比較を前回と比べたところ、今回の「2年生」は前回よりも低下していたが、その他の学年は前回は上回っていた。特に「3年生」では前回の60.0%が67.4%になっていた。また、「5年生」が低い傾向は変わらなかった。
- 在学中の意識についてH21の結果を見ると、「目的・目標あり」は「4年生」で42.7%と非常に低く、「3年生」も46.7%と低めであった。一方「2年生」は55.8%で最も高く、目的や目標が見えている学生が多いと言える。
- 前回と比べると、「4年生」は前回の同学年よりも11.7ポイント低く、目的・目標が見えていない学生が多いようであったが、他の学年は前回の結果を上回っていた。特に「5年生」は前回は15.2ポイントと大きく上回っており、非常に良い状態にあるものと思われる。

高専入学前の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



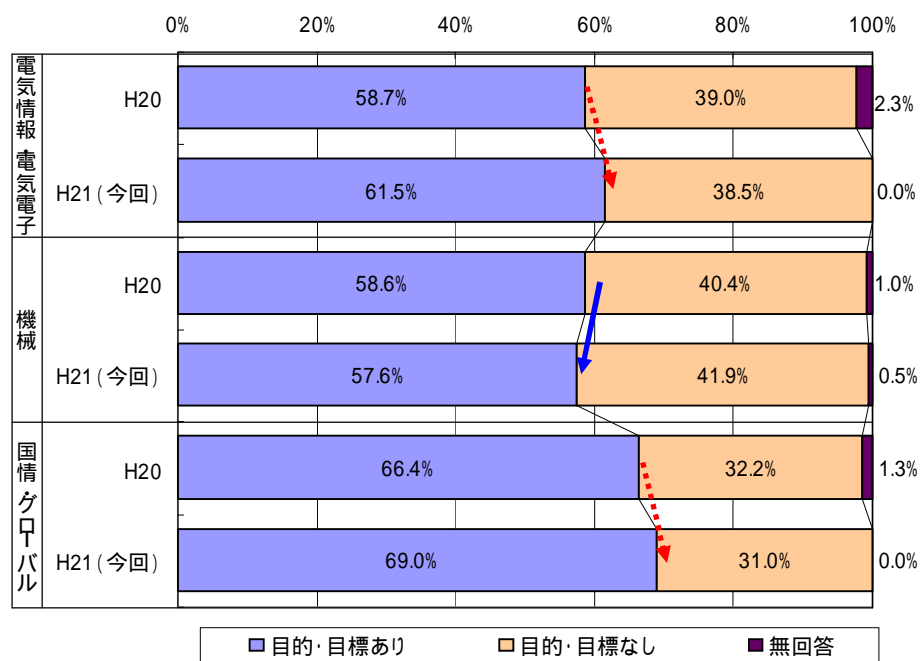
在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



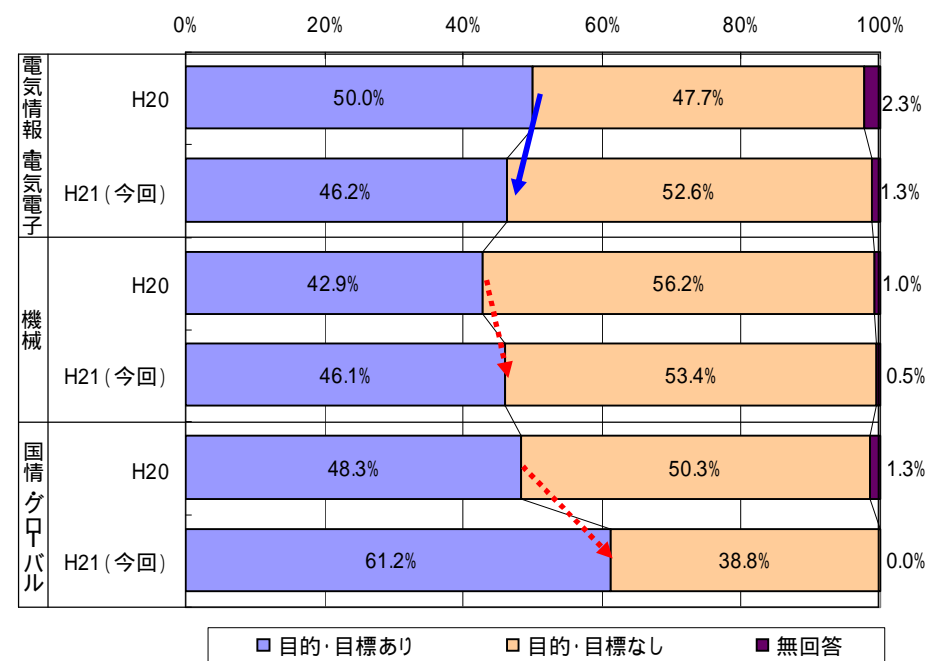
「目的・目標」の意識の学科別比較

- 入学前の意識を学科別に比較した。まずH21の結果だけを見ると、「国情・グローバル」では69.0%が「目的・目標あり」と答えており、「電気情報・電気電子」は61.5%、「機械」は57.6%であり、「国情・グローバル」の高さが目立っていた。
- 年度別の比較を見ると大きな変化はないが、「機械」だけが前年よりわずかに低下しており、「国情・グローバル」は2.6ポイント、「電気情報・電気電子」は2.8ポイント前回を上回っていた。
- 在学中の意識に関しては、H21は「国情・グローバル」の高さが目立っており、61.2%が「目的・目標あり」と答えていた。そして、「電気情報・電気電子」は46.2%、「機械」は46.1%であり、この2学科では半数以上が目的・目標が見えていないと答えていた。
- 年度別の比較においても「国情・グローバル」の変化が目立っており、前回は12.9ポイント上回っていた。また、「機械」は前回は3.2ポイント上回っており、「電気情報・電気電子」は3.8ポイント下回っていた。前回は「電気情報・電気電子」が最も目標が見えていたが、今回は大きく下がる結果となっていた。

高専入学前の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較



在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較

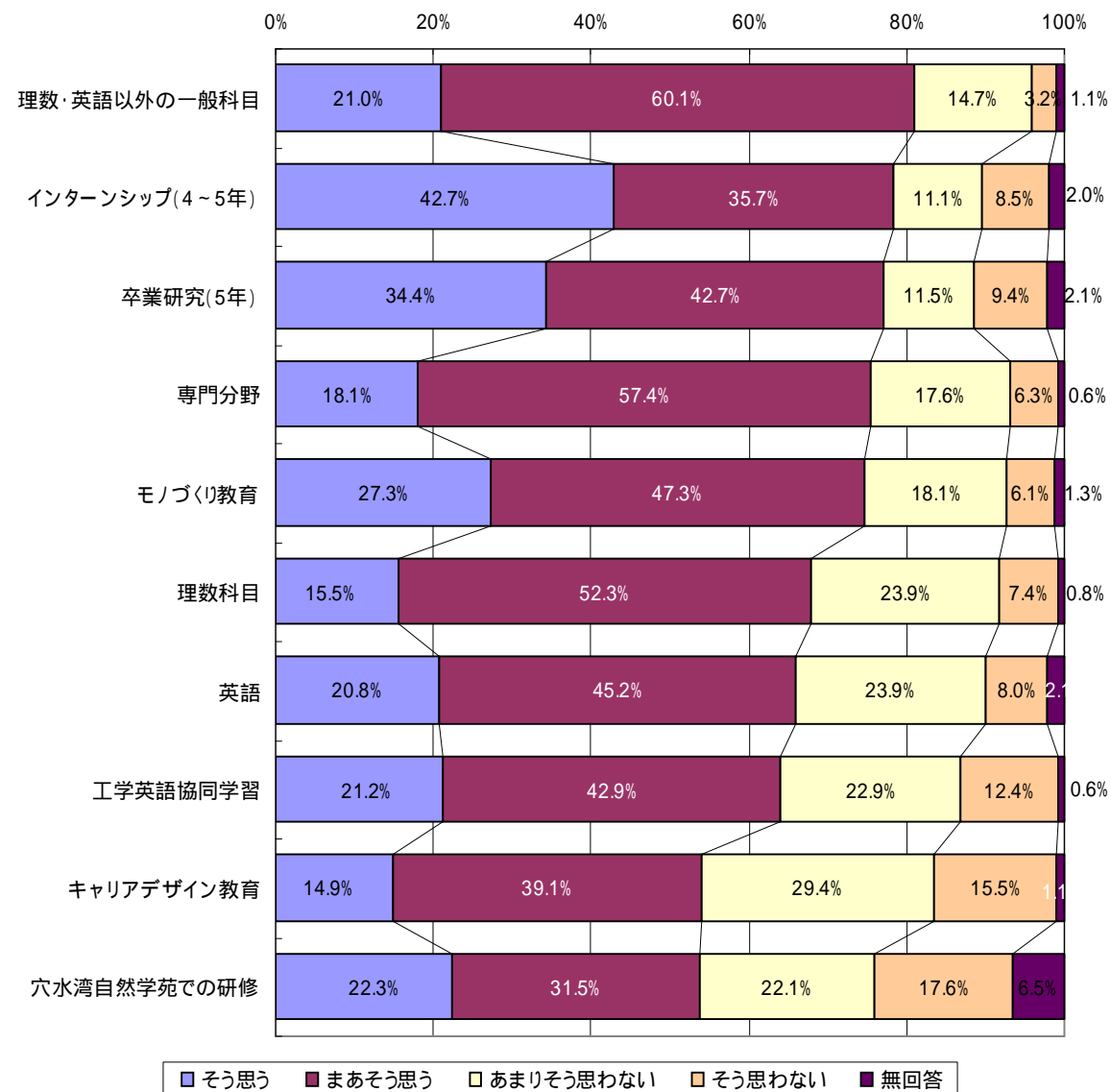


授業に関して

授業に対する評価

- 授業に対する満足度は10の科目に関して聞いているが、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせたもので比較すると、最も満足度が高かったのは「理数・英語以外の一般科目」であり、81.1%が満足と答えていた。
- 上記に次いで「インターンシップ」の満足度が高かった。これは4～5年生だけに聞いたものであるが、「そう思う」が42.7%であり、非常に満足度が高い。同様に「卒業研究」は5年生だけに聞いているが、34.4%が「そう思う」であり、こちらの満足度も非常に高いと言える。
- ここまでの3科目に「専門分野」「モノづくり教育」を加えたものが満足度の高い上位5科目となるが、「理数・英語以外の一般科目」を除くと、いずれも専門性の高い科目であり、学生の興味がうかがえる。
- 一方、満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」と「キャリアデザイン教育」であり、いずれも満足している学生は半数程度であった。
- 「工学英語協同学習」「英語」の満足度もやや低めであり、満足しているという回答は6割強であり、4割は不満と答えていた。

授業に対する満足度(在学生のみ)

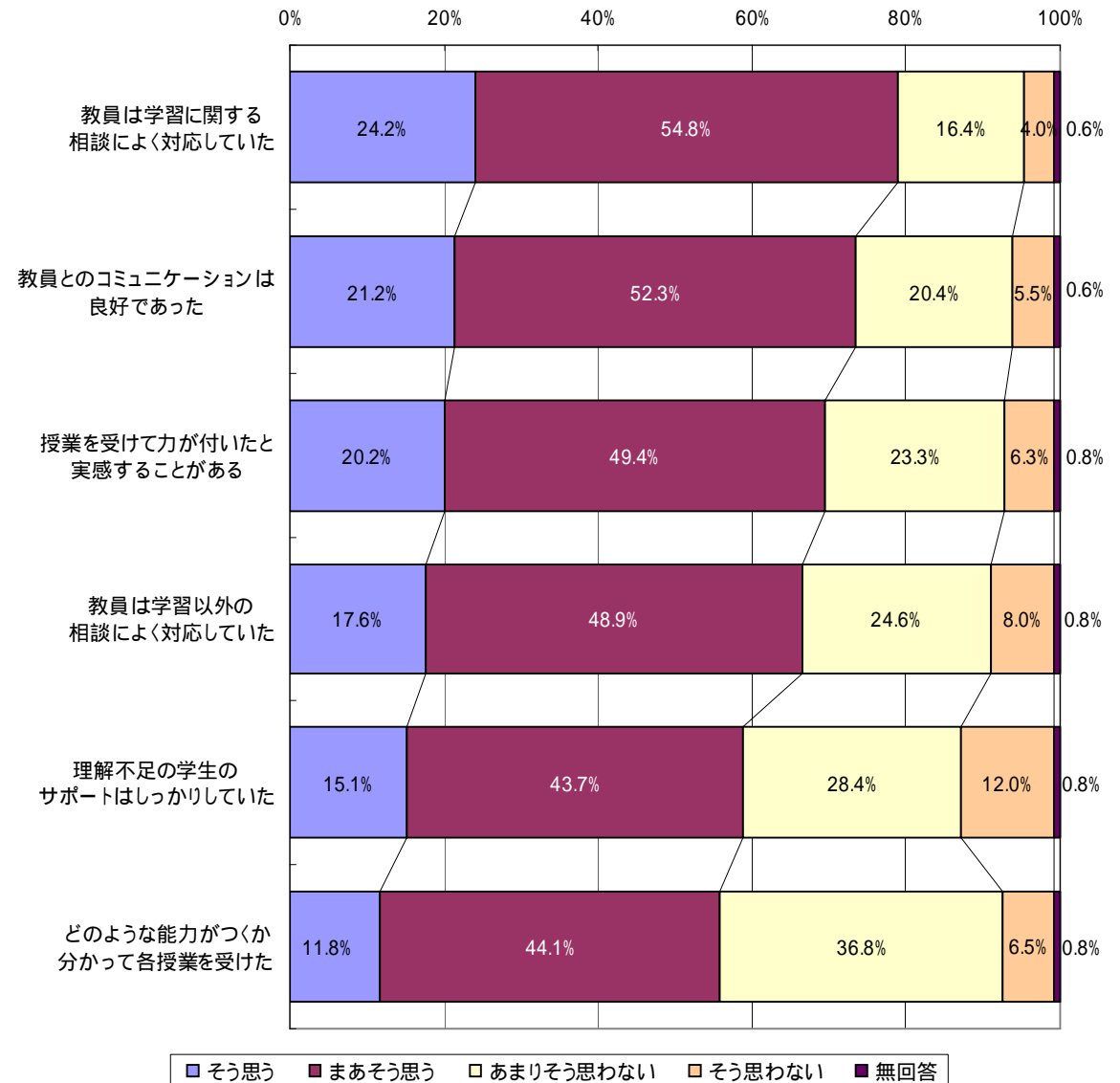


教員および学習支援に関して

教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援の満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、最も満足度が高かったのは「教員は学習に関する相談によく対応していた」であり、79.0%が満足していた。
- 次に、「教員とのコミュニケーションは良好であった」には73.5%が満足しており、学生と教員とのコミュニケーションには8割程度が満足していることが分かった。
- 「授業を受けて力が付いたと実感することがある」には69.6%が満足しているが、逆に残りの3割は成長を実感できていないと言える。
- 満足度が最も低かったのは「どのような能力がつか分かって授業を受けた」で、満足したという回答は55.9%であり、約半数は授業の意味合いを理解できていないと言える。
- また、「教員は学習以外の相談によく対応していた」では32.6%が不満を感じており、学習に対する相談の満足度と比べると、差が見られる結果となった。

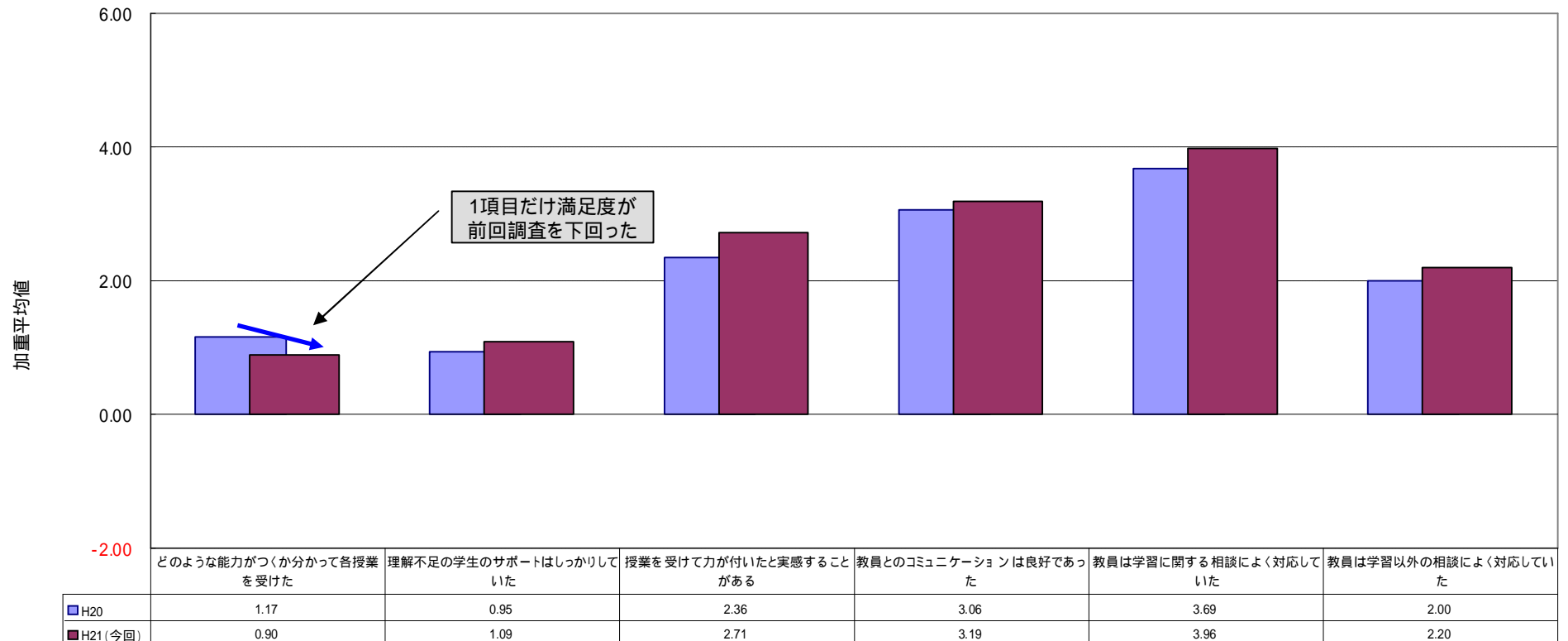
教員および学習支援の満足度 (在学生のみ)



教員および学習支援の満足度の年度別比較

- 教員および学習支援の満足度は前回のH20から聞いているが、比較すると、今回は1項目だけ前回の満足度を下回る結果となっていた。それは「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」で、わずかではあるが前回は下回っており、事前の説明が十分でないと言える。
- 上記以外はわずかずつであるものの前回のスコアを上回っており、満足度は向上する結果となっていた。特に「授業を受けて力が付いたと実感することがある」は前回は0.35点上回っており、学生が充実している様子がうかがえる。

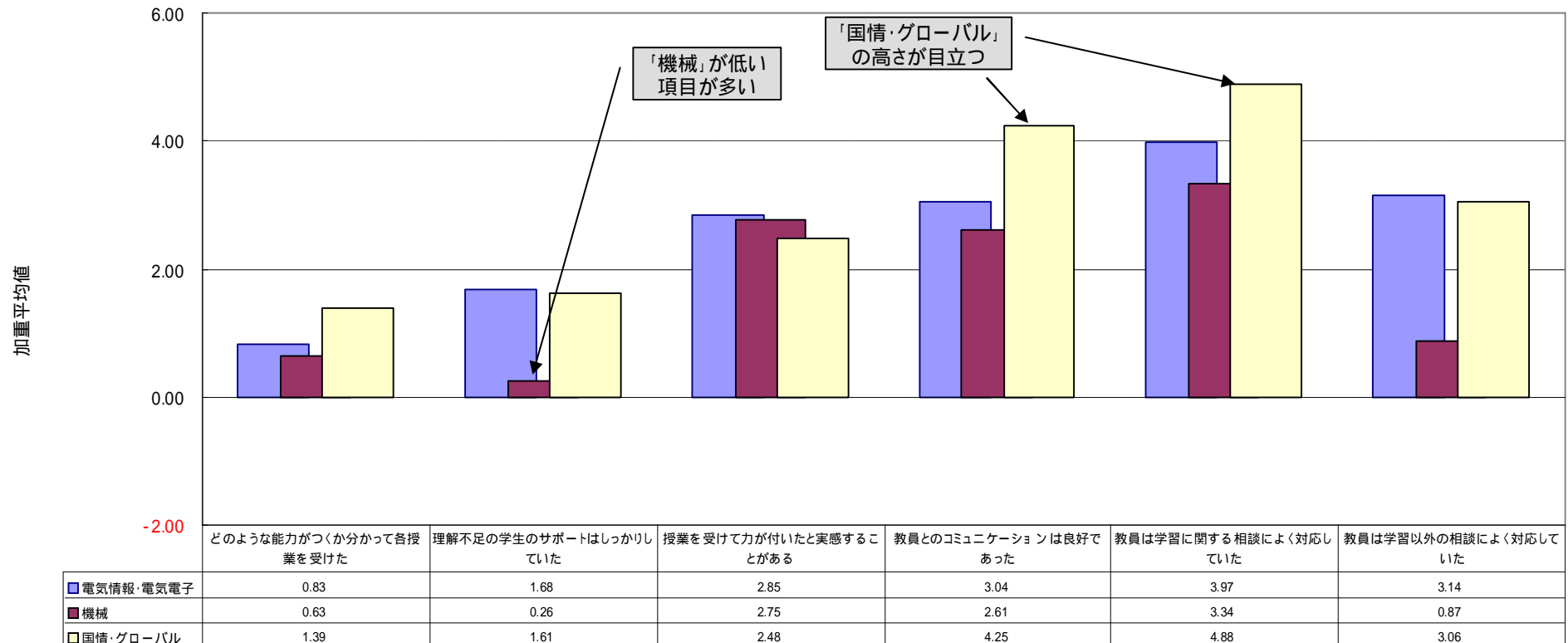
教員および学習支援評価 年度別比較



教員および学習支援の満足度の学科別比較

- 教員および学習支援の評価を学科別に比較したところ、「国情・グローバル」の満足度がやや高く、「機械」がやや低めであった。
- 「国情・グローバル」は「教員とのコミュニケーション」「学習に関する相談」の満足度が高く、教員との関係が良好なようであり、「どのような能力がつか分かって授業を受けた」も高かった。前出の質問で「目的・目標が見えている学生が多い」という傾向が見られたが、教員からしっかりした説明がなされているものと思われる。
- 「機械」はほとんどの項目で最も低かったが、特に「理解不足の学生のサポート」「学習以外の相談」の満足度の低さが目立っていた。「教員とのコミュニケーション」もスコアとしては低くないものの他学科よりも低く、教員との関係は良好とは言えないものと思われる。
- 「電気情報・電気電子」は突出したものはないが、「理解不足の学生のサポート」「授業を受けて力がついたと実感することがある」「学習以外の相談」は3学科の中で最も満足度が高く、目立って低いものもなかった。

教員および学習支援評価 学科別比較



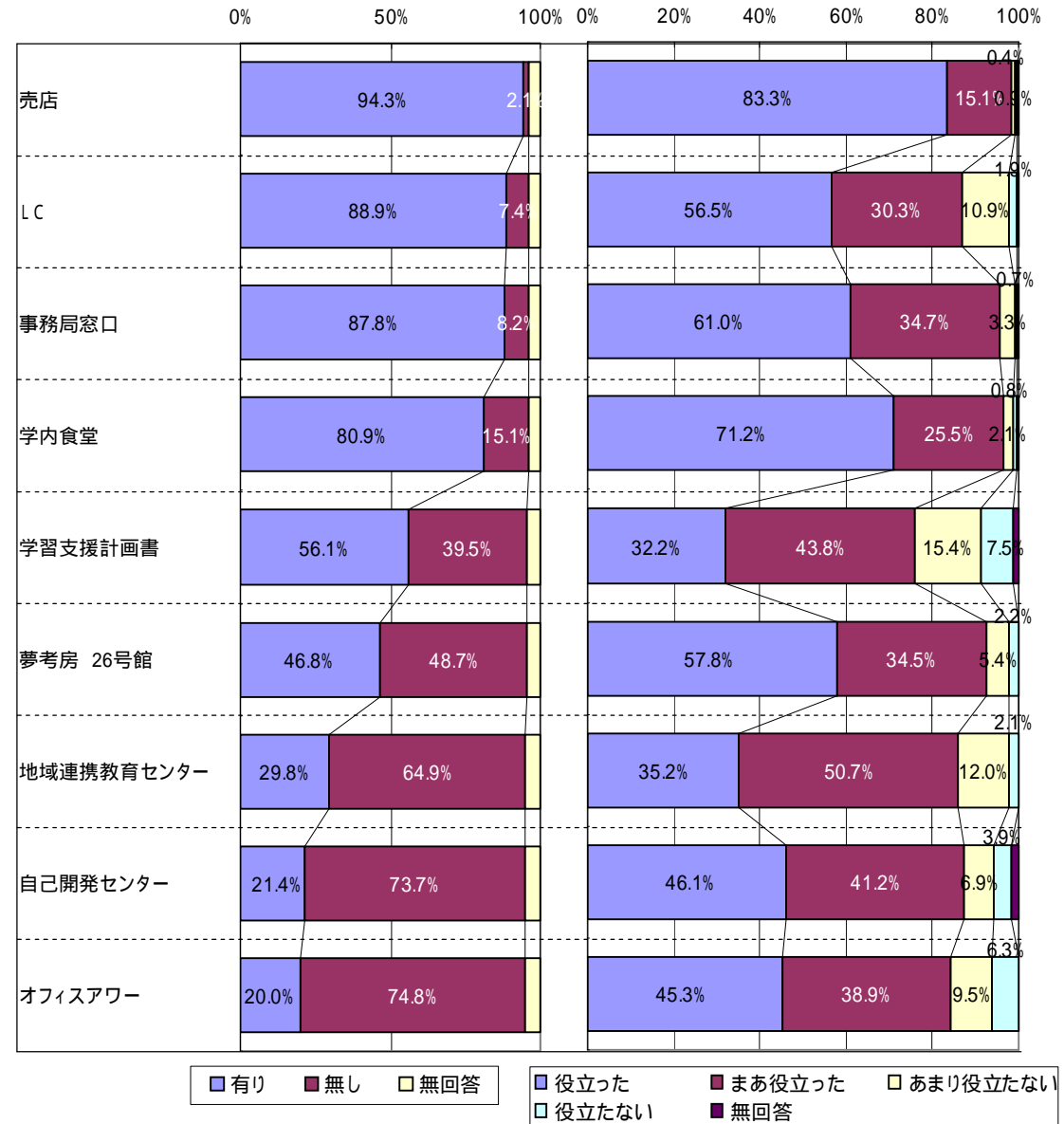
学生サポートに関して

学生サポートの満足度

- 学生サポートに関しては、まず各サポートの利用率を聞き、利用経験が「有り」という回答者にのみ、その満足度を聞いた。
- 利用度が最も高かったのは「売店」であり、94.3%が利用経験ありと答えていた。次いで「LC」「事務局窓口」「学内食堂」と続いていた。
- 一方、利用率が最も低かったのは「オフィスアワー」であり、利用経験者は20.0%であった。また、「自己開発センター」「地域連携教育センター」などの利用率も低く、2割～3割程度であった。
- 満足度では「役立った」と「まあ役立った」の合計で比べると、「学習支援計画書」の満足度はやや低いものの、その他は8割以上が満足と答えていた。
- 「役立った」だけで比べると「売店」の満足度が非常に高く、次いで「学内食堂」「事務局窓口」「夢考房26号館」「LC」と続いていた。「夢考房26号館」を利用する学生は半数程度であるが、利用者の満足度は高い施設と言える。
- 満足度が最も低かったのは「学習支援計画書」であった。基本的には全員が使うべきものであるが、利用率は56.1%であり、「役立った」は32.2%にとどまっていた。
- 「地域連携教育センター」も利用率が29.8%、「役立った」は35.2%で、満足度は低かった。

学生サポートの利用率(左グラフ)と満足度(右グラフ)

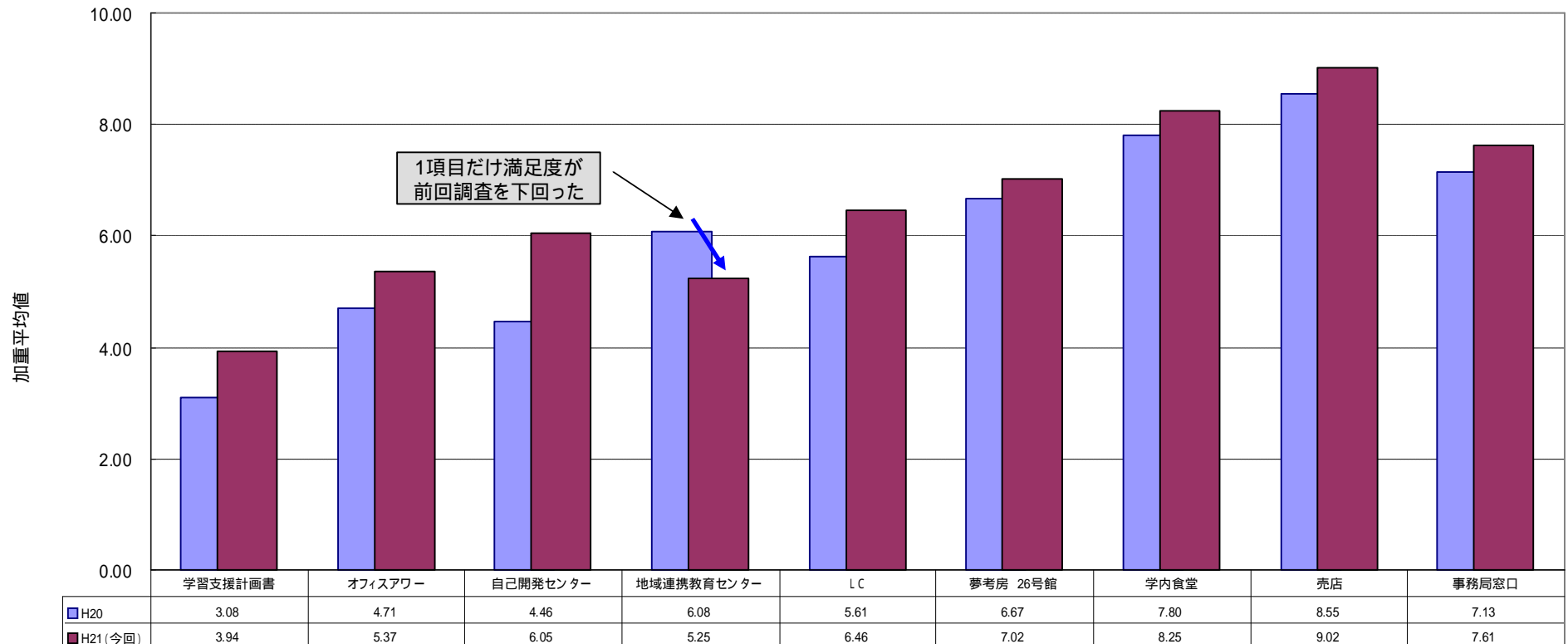
(満足度は利用者からの結果)



学生サポートの満足度(利用者のみ)の年度別比較

- 学生サポートの利用者の評価は前回の調査から聞いているため、それとの比較を行ったところ、「地域連携教育センター」の満足度が低下しているが、他は全て評価が上がっていた。
- グラフを見ると「自己開発センター」の評価は前回から大きく上がってきており、何らかの改善があったのではないかとと思われる。これらの変化の要因をはっきりさせておくことが、全体の改善に繋がるものと思われる。

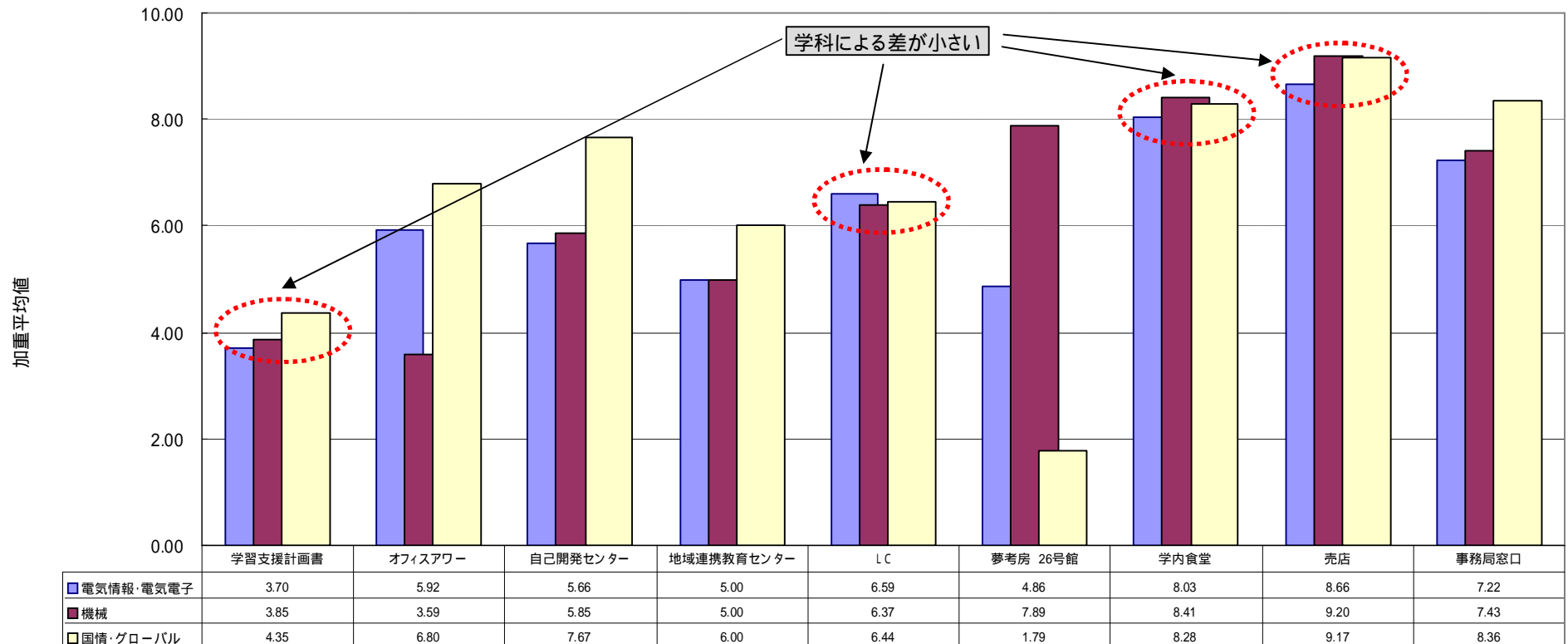
学生サポート評価 年度別比較



学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学生サポートの満足度を学科別に比較したところ、「学習支援計画書」「LC」「学内食堂」「売店」などは学科による評価の差があまり見られなかったが、他の項目にはかなり大きな差がついているものがあった。
- 差が最も大きかったのは「夢考房26号館」であり、「機械」の満足度が高く、「国情・グローバル」が非常に低かった。これはカリキュラムの中での利用度合いの違いによるものと思われるが、差は非常に大きかった。
- 「オフィスアワー」も学科による差が大きく、「国情・グローバル」の評価が高く、「機械」が低かった。「オフィスアワー」の機能から考えるとカリキュラムの違いによってこの差が生まれたとは考えにくく、学科の雰囲気によるものと思われる。
- 「自己開発センター」「地域連携教育センター」はいずれも「国情・グローバル」が高く評価しており、「電気情報・電気電子」と「機械」は同程度であった。これらは「国情・グローバル」が積極的に使っているものと思われる。

学生サポート評価 学科別比較

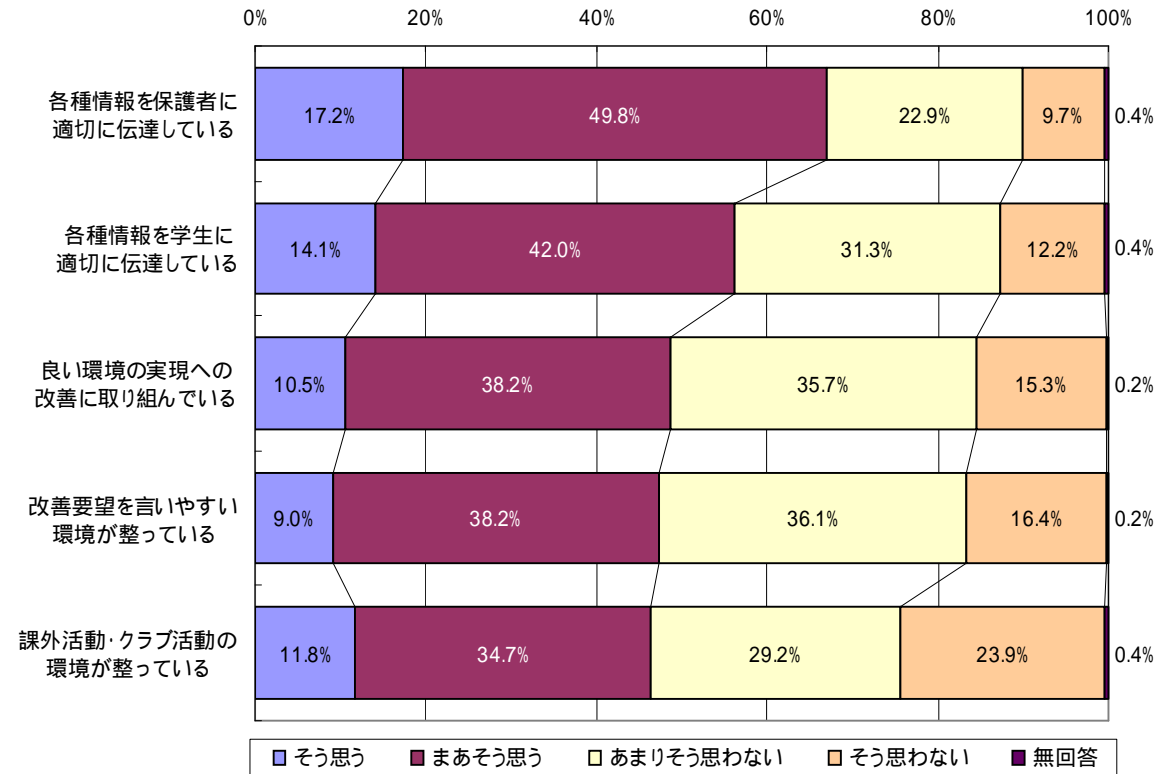


学校の取り組み姿勢に関して

学校の取り組み姿勢

- 情報伝達や改善への取り組みなど、学校の取り組み姿勢に関して5つの項目を聞いた。
- 最も高い評価を受けていたのは「各種情報を保護者に適切に伝達している」であり、67.0%が肯定的な意見であった。
- 次に、「各種情報を学生に適切に伝達している」では肯定的な意見が56.1%であり、半数は超えているものの上記の「保護者」よりも低く、4割の学生は情報が伝わっていないと感じている。
- 他の3項目、「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」「改善要望を言いやすい環境が整っている」「課外活動・クラブ活動の環境が整っている」は同じような評価であり、肯定的な意見が5割弱であった。ただし、「課外活動・クラブ活動」に関しては「そう思わない」が23.9%とやや多めであり、この点に関する改善要望はやや強いと言える。

学校の取り組み姿勢の評価 (在学生のみ)

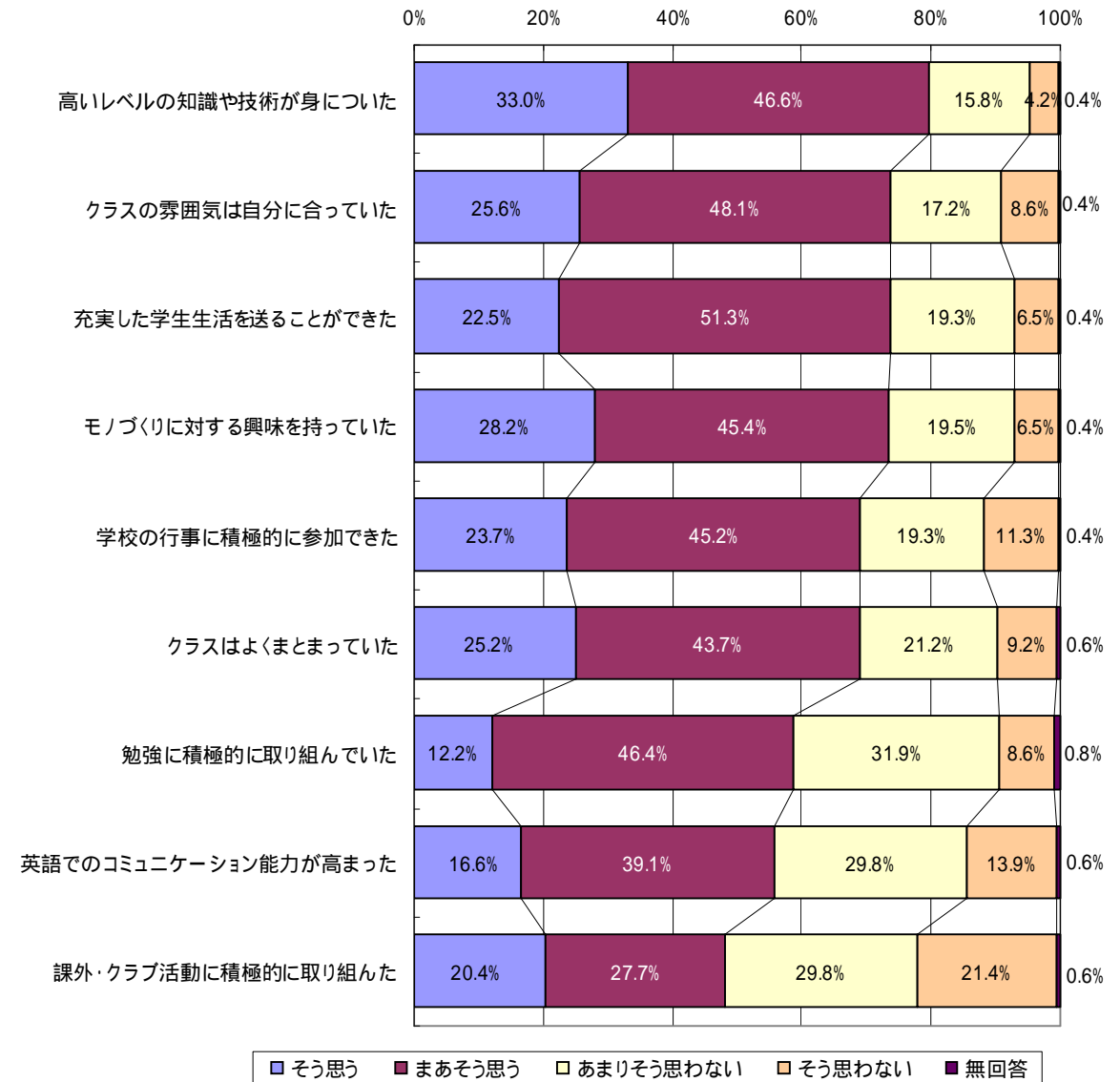


学校での過ごし方に関して

学校での過ごし方

- 学校での過ごし方に関して、「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、「高いレベルの知識や技術が身についた」では79.6%が肯定的な意見であり、カリキュラムのレベルの高さを感じているようであった。
- 次に、「充実した学生生活を送ることができた」「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が続いていた。「学校の行事に積極的に参加できた」「クラスはよくまとまっていた」でも7割程度が肯定的な意見であり、充実した学生生活を送っている様子が見えられた。
- 一方、評価が最も低かったのは「課外・クラブ活動に積極的に取り組んだ」であり、肯定的な意見は半数にとどまった。「課外・クラブ活動の環境」でも不満意見が多かったが、ここでも同じような結果となっていた。
- また、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」では55.7%が肯定的な意見で、やや評価は低く、「勉強に積極的に取り組んでいた」の「そう思う」は12.2%で最も少なく、「まあそう思う」を合わせても58.6%であった。

学校での過ごし方(在学生のみ)

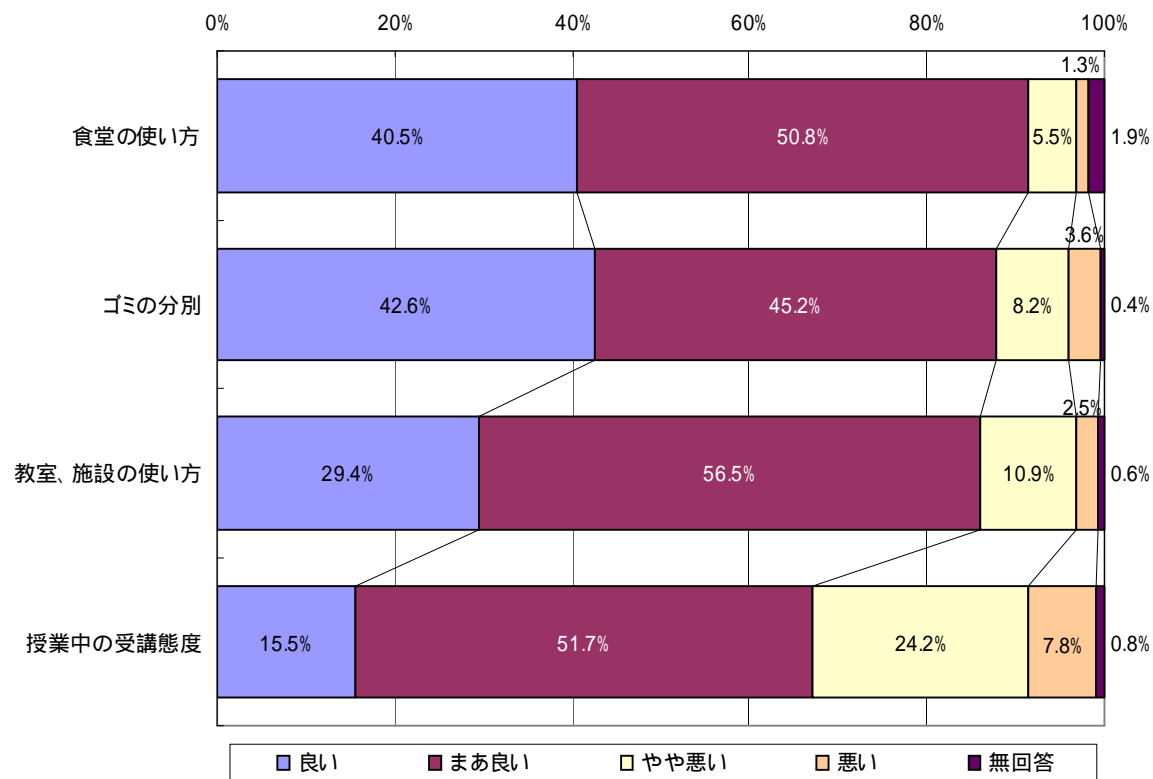


学内での自分自身のマナーに関して

学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーに関しては、「自分自身のマナーをどう思うか？」と自己評価を聞いている。
- 「良い」と「まあ良い」を合わせたもので比較すると、「食堂の使い方」は91.3%、「ゴミの分別」は87.8%が問題はないようであった。
- 授業に関しては、「教室、施設の使い方」は85.9%と大多数は問題ないと考えていたが、「授業中の受講態度」では67.2%と少な目であり、3割が自分自身の受講態度が良くないと答えていた。

学内での自分自身のマナー（在学生のみ）

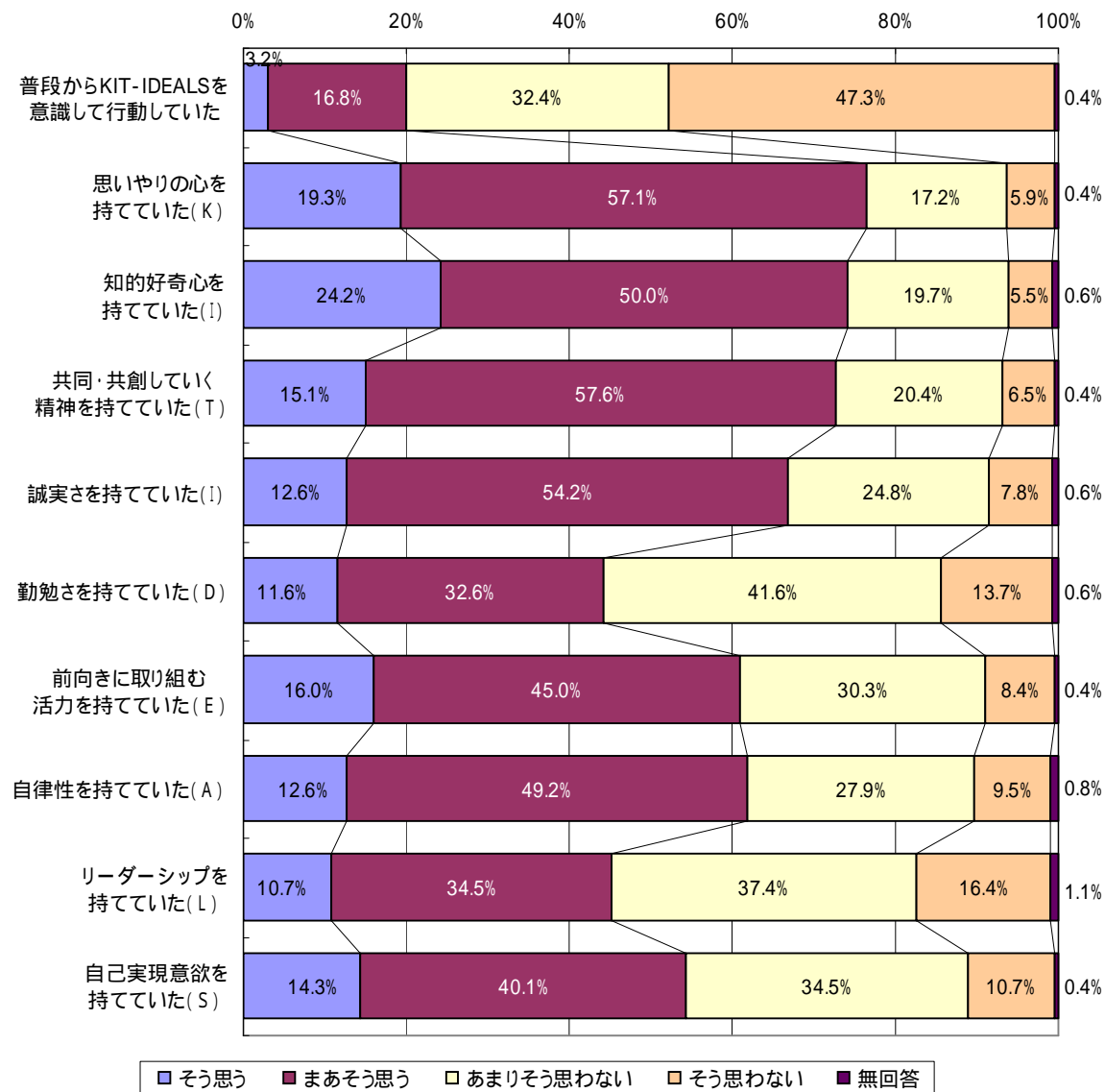


KIT-IDEALSに関して

KIT-IDEALSに関して

- 学生のKIT-IDEALSに対する意識を聞いた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」を合わせたものと見ると、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」という学生は2割程度にとどまっていた。
- 「思いやりの心を持っていた(K)」は76.4%が肯定的な意見であり、最も多かった。
- 上記に次いで、「知的好奇心を持っていた(I)」「共同・共創していく精神を持っていた(T)」などで肯定的な意見が多かった。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは「勤勉さを持っていた(D)」「リーダーシップを持っていた(L)」であり、学生自身はこのあたりに課題を感じているようであった。

KIT-IDEALSに関して (在学生のみ)

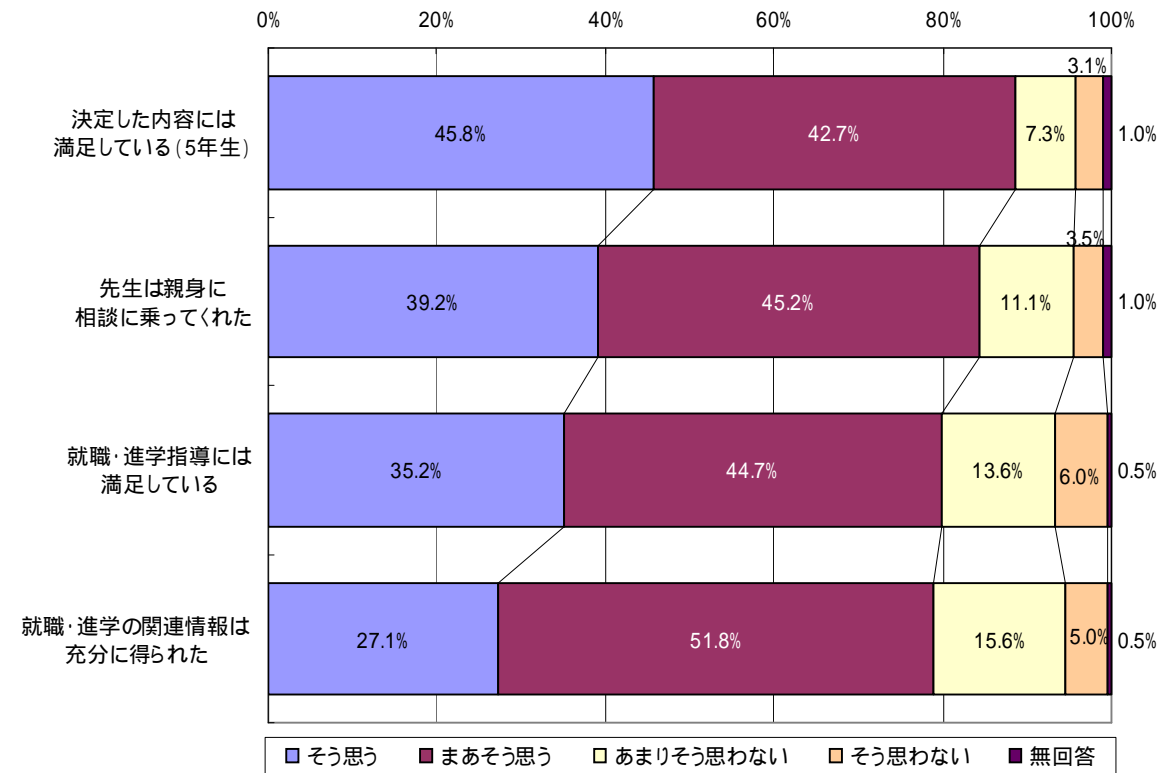


就職・進学支援に関して

就職・進学支援に関して

- 就職・進学支援に関しては4年生と5年生にのみ聞いている。
- 全体的に満足度は高いようであったが、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた肯定的な回答を比較すると、最も高かったのは「決定した内容には満足している」であり、88.5%が満足しているようであった。
- 次に満足度が高かったのは「先生は親身に相談に乗ってくれた」の84.4%、続く「就職・進学指導には満足している」は79.9%が肯定的な意見であった。
- 「就職・進学の関連情報は十分に得られた」では78.9%が肯定的な意見であり、全体を見ると約8割は就職・進学支援に満足しており、約2割は不満を持っていると言える。

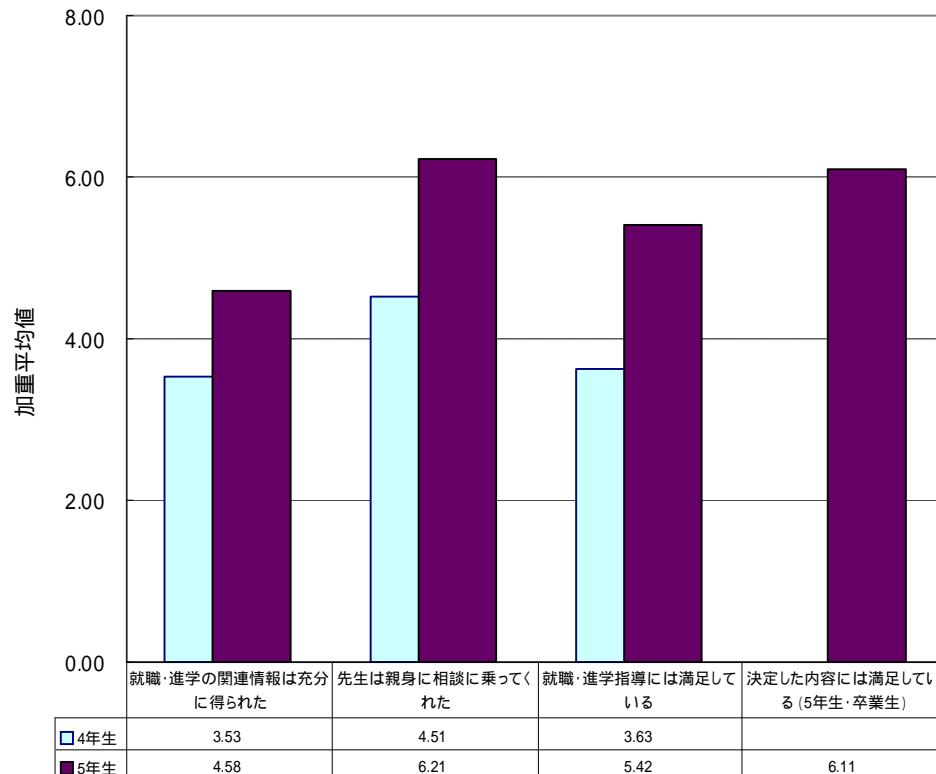
就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)



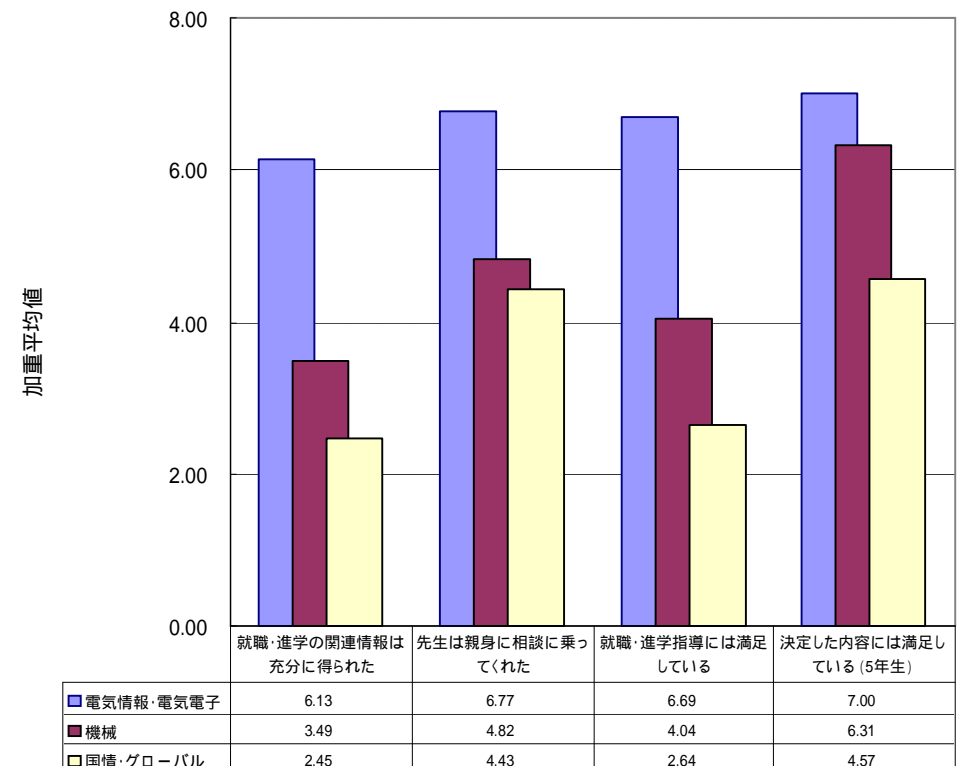
就職・進学支援の学年別比較 学科別比較

- 「就職・進学支援」の評価は「4年生」と「5年生」に聞いているが、学年毎に比較すると全ての項目で「5年生」の方が評価が高く、「5年生」の満足度の高さが確認できた。
- 学科別の比較では全ての項目で「電気情報・電気電子」のスコアが最も高かった。特に「就職・進学の関連情報は十分に得られた」「先生は親身に相談に乗ってくれた」「就職・進学指導には満足している」の3項目は他の2学科との間に大きな差があり、非常に満足しているようであった。
- 一方、「国情・グローバル」は全項目で最もスコアが低かった。特に「決定した内容には満足している」では他の2学科に比べてスコアが低く、決定内容に不満を持っていることが分かった。

就職・進学支援の評価 学年別比較



就職・進学支援の評価 学科別比較

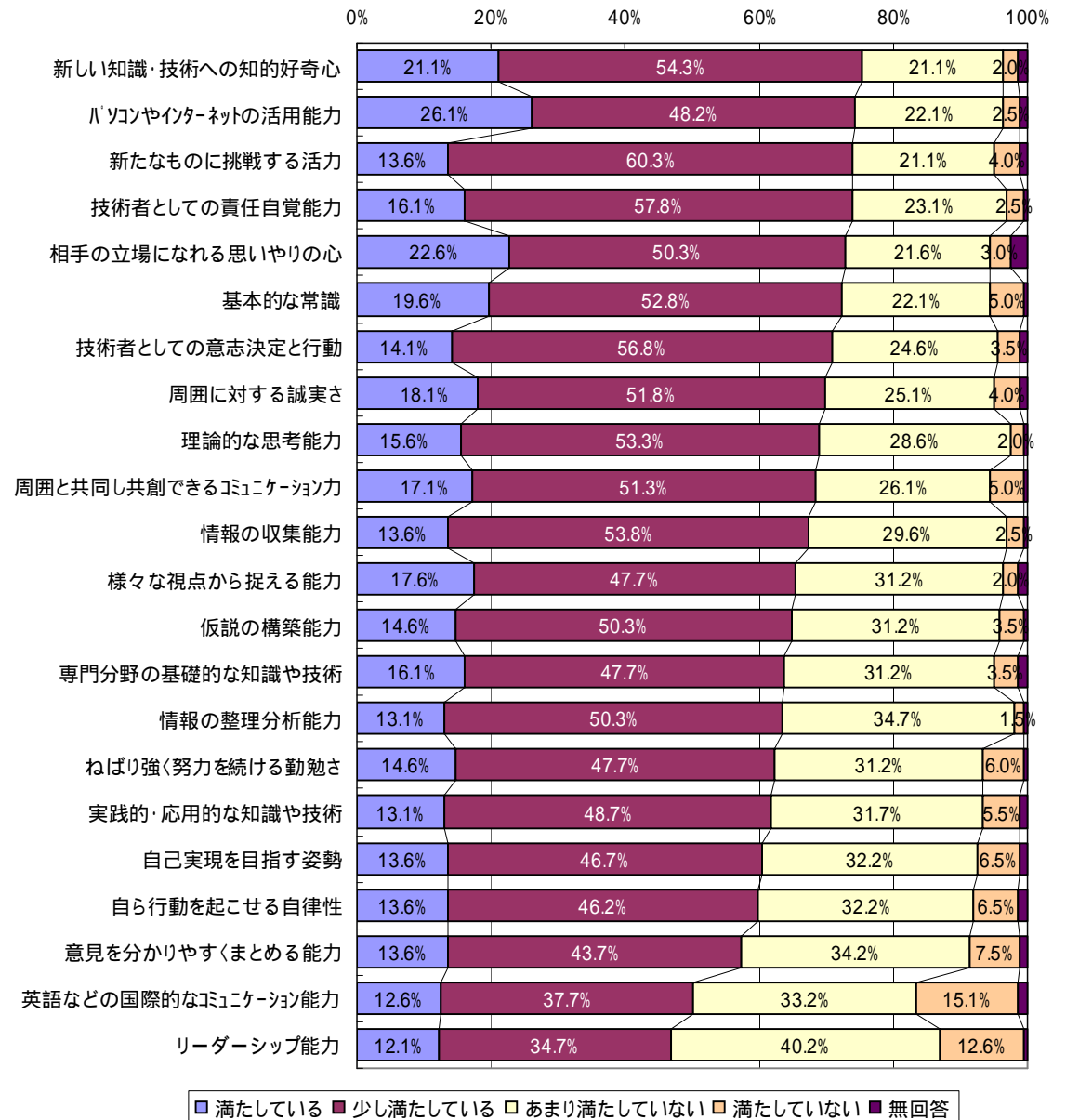


学生の能力に関して

自分自身の能力に関して

- 学生自身の現段階の能力に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いたが、「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた肯定意見は「新しい知識・技術への知的好奇心」が最も多く、学生が最も自信を持っている能力と言える。
- 上記に次いで「パソコンやインターネットの活用能力」「新たなものに挑戦する活力」「技術者としての責任自覚能力」「相手の立場になれる思いやりの心」が続いており、ここまでが上位5項目となる。
- 一方、最も低かったのは「リーダーシップ能力」であり、KIT-IDEALSの評価でも見られたように、ここに苦手意識があるように思われる。
- 次いで苦手な項目は、「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「自ら行動を起こせる自律性」「自己実現を目指す姿勢」と続いており、学生の弱い面としては「リーダーシップ」「自律性」「自己実現」といったキーワードが見られる。

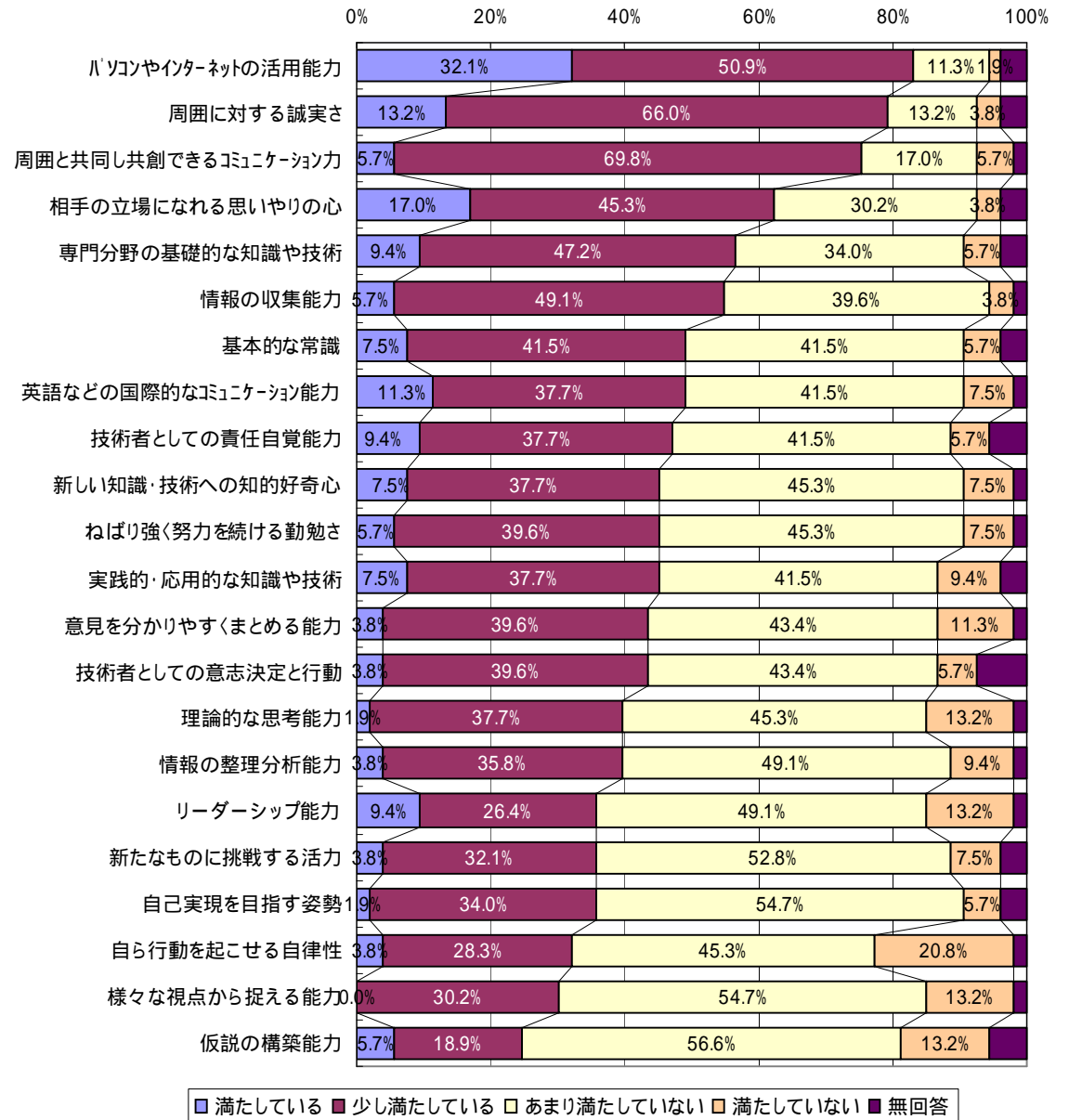
学生が考える現段階の自分自身の能力



教職員による卒業生の能力評価

- 教職員には卒業生の卒業時の能力の評価を聞いているが、最も高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」であり、ここが学生の強みと考えていることが分かる。
- 次いで、「周囲に対する誠実さ」「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」「相手の立場になれる思いやりの心」「専門分野の基礎的な知識や技術」が続いており、学生たちは周囲のことに配慮しつつ、協力しながら物事を進めている能力を備えていると見ているようであった。
- 肯定意見が少なかったのは「仮説の構築能力」「様々な視点から捉える能力」「自ら行動を起こせる自律性」「自己実現を目指す姿勢」「新たなものに挑戦する活力」などであり、学生には物事を多面的に見る能力や積極的で前向きな姿勢が足りないと見ているようであった。

教職員による卒業生の能力評価

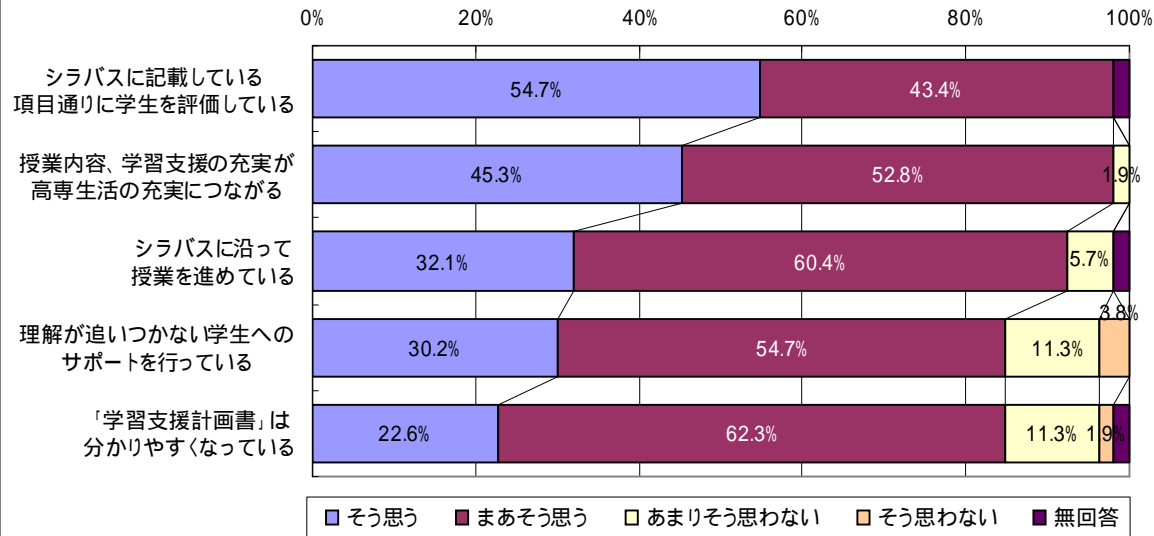


金沢高専の授業と教員業務に関して

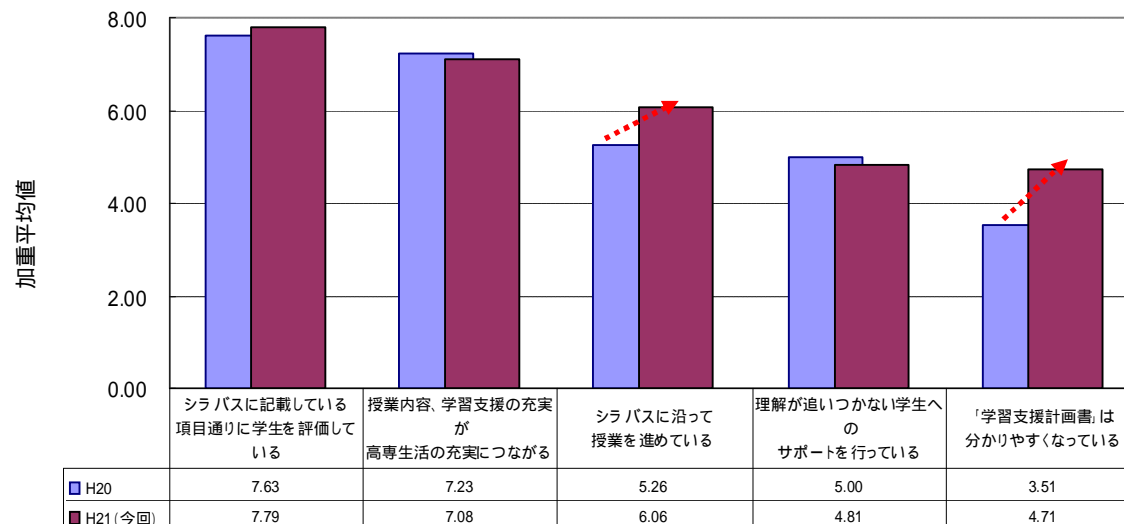
教員の「授業および学習支援」の自己評価

- 教員に授業および学習支援の自己評価を聞いたところ、「シラバスに記載している項目通りに学生を評価している」では、「そう思う」が54.7%、「まあそう思う」が43.4%で、合わせると98.1%が肯定的な意見であった。
- 「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」と考えている教員も98.1%であり、「シラバスに沿って授業を進めている」という教員は92.5%であった。
- 肯定的な意見が少なかったのは「学習支援計画書は分かりやすくなっている」と「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」であったが、両者共に84.9%は肯定的な意見であり、悪い評価となっているわけではなかった。
- 前回の調査と比べると、「シラバスに沿って授業を進めている」「学習支援計画書は分かりやすくなっている」の2項目は前回より高いスコアとなっていたが、他の項目はほとんど変わっていなかった。

教員の「授業および学習支援」の自己評価



教員の「授業および学習支援」の自己評価 年度別比較

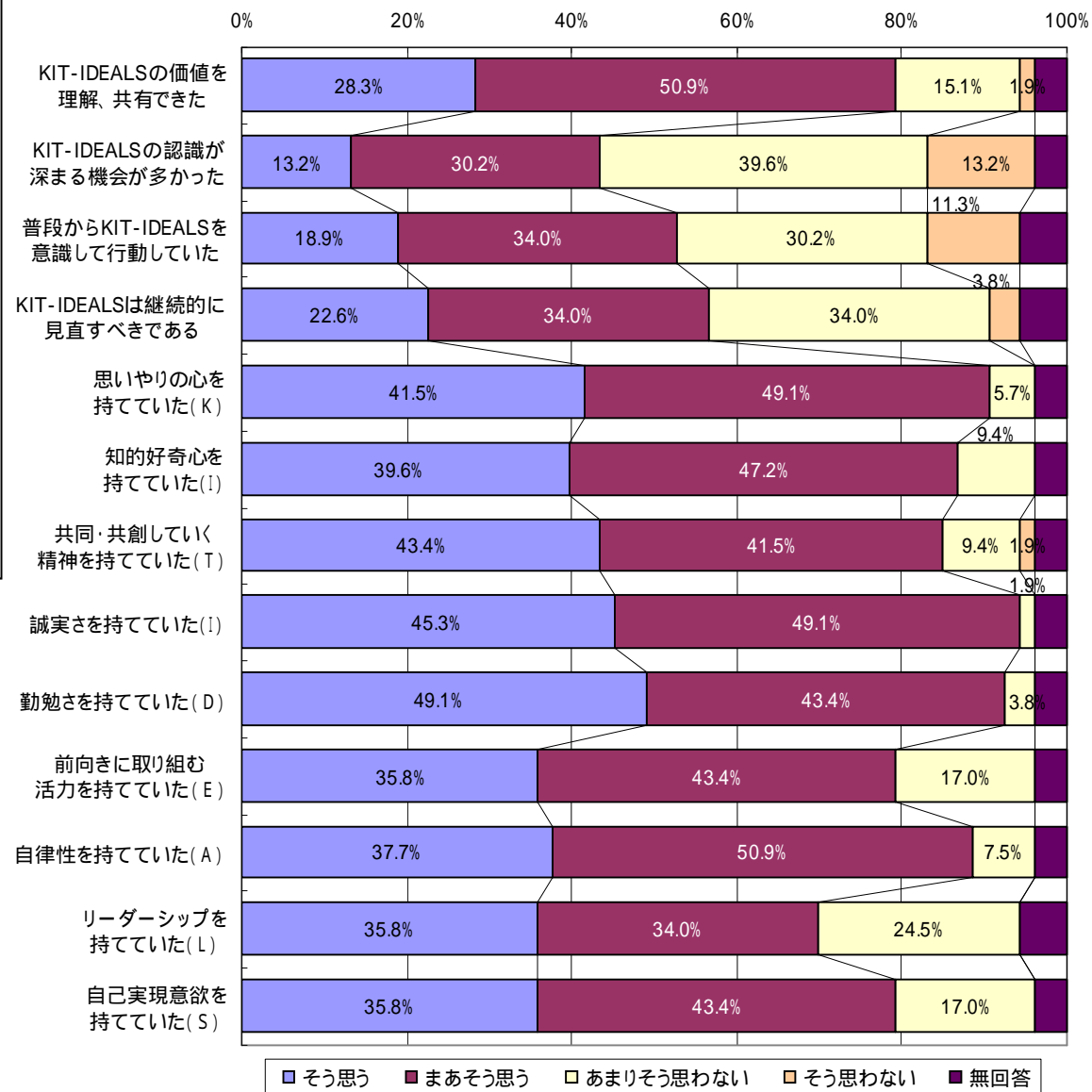


教職員の意識に関して

教職員のKIT-IDEALSに関する意識

- 教職員に「KIT-IDEALS」に関する意識を聞いたところ、「KIT-IDEALSの価値を理解、共有できた」という意見は79.2%と高かった。
- 一方、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」は52.9%で、「KIT-IDEALSの認識が深まる機会が多かった」は43.4%であり、日常的にKIT-IDEALSを意識している教職員は半数程度にとどまっていた。
- 内容に関しては、「誠実さを持っていた(I)」「勤勉さを持っていた(D)」「思いやりの心を持っていた(K)」などが高めであり、9割以上が肯定的な意見であった。
- 内容の中で最も低かった項目は「リーダーシップを持っていた(L)」であり、肯定的な意見は69.8%であった。また、「自己実現意欲を持っていた(S)」「前向きに取り組む活力を持っていた(E)」のスコアも低めであった。

KIT-IDEALSに関して(教職員)



全体の課題のまとめ

総合調査から見える改善ポイントの全体像

< 学生の満足度や目的・目標志向に関して >

3割は不満を持っているという事実の確認

「目的・目標」が見えやすい環境の演出

良い状態の学生群である「現2年生」の傾向の把握

< 授業・学習サポートに関して >

英語系授業の再点検

各授業で「目的・目標」を持たせる工夫

「学習支援計画書」「学生サポート策」の再点検

< 学校での過ごし方に関して >

「課外活動・クラブ活動」の環境改善の余地の把握

学生に対する積極的な情報伝達の実施の検討

「1年生」が期待はずれを感じないような体制の構築

< その他の環境に関して >

KIT-IDEALSの位置づけ・指導方法の見直し

就職・進学支援の学科別の不満点の明確化と
就職環境に合わせた臨機応変な対応

教員調査から見えた課題

- ◆「学習支援計画書」「教員間、学科間の情報共有」「業務上での学科間の連携」などに課題がありそうであった。
- ◆教職員も「課外活動・クラブ活動」に改善の余地があると感じているが、実態としては時間を充てることができていないようであった。
- ◆6割の教職員は職場に満足し、8割弱が学校は改善に取り組んでいると答えており、改善が進んでいるものと思われる。

平成21年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

発行日	平成22年5月31日
発行者	金沢工業高等専門学校
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています